



新年度のスタートから、早くも1ヶ月。過ぎしや
すい季節になってきましたが、日によっては真夏のよ
うな日差しを感じる時もあります。まだまだ寒暖差も
ある時期ですので、感染症対策にも留意しつつ、元気
に過ごせるように気を付けていきたいですね。

飛び出しに注意!

まてまて〜

乳幼児の事故は0歳では窒息、
1〜4歳では交通事故、窒息、溺水の順に
多くなります。5歳以上は、交通事故と
溺水での合計で7割を超えます。



そして幼児の交通事故は、左記の点が不十分なときに
発生の可能性が高くなると言われています。
気候が良くなり、戸外で過ごす時間も増えると思いま
す。事故防止の鉄則を踏まえ、交通事故を防いでいき
ましょう。

事故防止の鉄則

- ★子どもを一人にしない
- ★子どもから目を離さない

【具体的には】

- ・子どもを自転車に乗せている時は
離れないようにしましょう。
- ・子どもの飛び出しに、気を付けま
しょう。
- ・慣れた道や場所でも、周囲や子ど
もの動きに、注意を払いましょう。



予防接種のすすめ

予防接種には、「予防接種法」で定め
られている定期接種と、認可されているが、
同法には記載されていない任意接種があります。
接種をすることで病気に罹りにくくなるだけでなく、社会
全体の集団免疫を得ることができます。そのため現在では
罹る人が少なくなった病気も定期接種に含まれています。
接種には適切な時期と回数があります。スケジュール表を
確認し、年齢毎に接種忘れがないようにしていきましょう。



◆定期接種の目安（未就学）

- 生後2ヶ月〜
 - ・ヒブ（計4回）
 - ・小児用肺炎球菌（計4回）
 - ・B型肝炎（計3回）
 - ・ロタリックス（計2回）
 - ・ロタテック（計3回）
- 生後3ヶ月〜
 - ・4種混合（計4回）
- 生後5ヶ月〜
 - ・BCG（1回）
- 生後6ヶ月〜
 - ・日本脳炎1期（計3回）
- 生後12ヶ月〜
 - ・MR1期（1回）
 - ・水痘（計2回）
- 小学校入学前の年の1年間
 - ・MR2期（1回）

※上記は目安です。接種にあたっては、
各自治体からの通知を確認いただき、
定期接種の計画を立てましょう。

いりょう しょうだん こども医療でんわ相談

発熱、頭をぶつけた、嘔吐、けいれんなど 判断に困ったら



◆こども医療電話相談事業とは

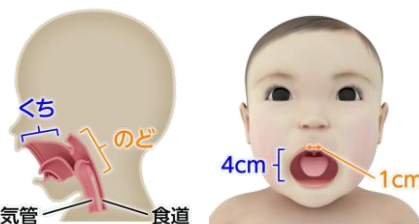
- ・休日や夜間のこどもの症状への対処、受診の判断
の相談。小児科医師や看護師に相談出来ます。
- ・全国同一の短縮番号（#8000）で使用出来ます。

地域	一般ダイヤル	平日 (月～金)	休日 (土含む)
東京	03-5285-8898	18時～翌8時	8時～翌8時
千葉	043-242-9939	19時～翌6時	左記に同じ
神奈川	045-722-8000	18時～0時	左記に同じ

※その他地域は「#8000」で検索ください。 ※休日は年末年始も含む
※厚生労働省 「子ども医療電話相談事業について」HP参照

～予防が一番～

- ◆食事中に笑わせたり、
驚かさない
- ◆丸い食べ物はカットする
例：ブドウの粒を1/4にする
- ◆4cm以下のものは、子ども
が触れないようにする



※消費者庁「子どもが窒息?!そのとき、
あなたの応急手当が必要です！」参照



119番

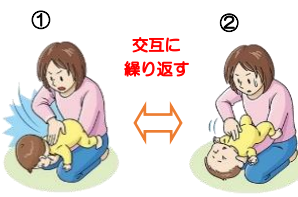
到着まで、下記
応急手当を続ける

【窒息のサイン】

- ・喉を押さえる
- ・口に指を入れる
- ・声を出せない
- ・呼吸が苦しそう
- ・顔色が青くなる

乳児

- ① 乳児のあごを支えてうつ伏せに
抱き、背中を叩く（5回）
- ② 乳児を仰向けにし、頭部を支え、
胸の中心を圧迫する（5回）
- ③ 取れるまで、①②を繰り返す。



※政府広報オンライン参照

幼児（一歳以上）

- ① まずは背中を叩く（5回）
- ② 背後から両腕を回して、片方の
手を握りこぶしにし、子供の
みぞおちの下に当てる。もう
片方の手をその上に当てて、
両手で腹部を上から圧迫する（5回）
- ③ 取れるまで①②を繰り返す。



上記でも触れたように、乳幼児の窒息事故は少なく
ありません。小さな子どもは、手にしたものを何で
も口に入れて確認しようとします。
窒息は、短時間で命にかかります。いざという時
のために、適切な対応方法を覚えておきましょう。
また生活環境を「予防」の観点から再確認してみま
しょう。

窒息いざいざ！という時の対応